

日韓両言語の諺に現れる男女の二元対立の諸相

— 表現に見られる語彙の構成を中心に —

金 秀 眞
浮 田 三 郎

1. はじめに

世界の言語表現を検証してみると、そこには社会的な性差別といったものが見られる。

語彙は、「音韻や文法に比べて、言語以外の世界との関係が密接であるので、言語以外の諸文化を解明するためにも、その研究が必要とされ、利用されることが多く」(西尾、1991、p. 6)、さらに、その中でも特に名詞は、「表象の複雑な表を裁断するより、行為や過程を裁断し、かつ停止、固定させる役割をはた」(차、1999、p. 160) している。

このように、語彙には、その社会・文化の通念がよく表れている。そして、マッコーネル・ボーカー・ファーマン (1989、p. 72) は、「男性中心の社会が続いている日本も欧米も、ほとんどの語が男性を表すものを無標 (unmarked) とし、それをもとに女性語を作る。」と述べている。言語表現に見られる性差に関する従来の研究の多くは、男性語彙、女性語彙の特徴を調べることに集中している。それは、語彙がそれほど重要な手がかりをもっていることを意味する。

ところで、言語表現に見られる性差を論じている古田は、「人々の考える言語における性差は諺に大切に保存されている場合が多い。」(1990、p. 17) と述べ、今野は、「諺もまた蔑視と差別をまとうものが見られる。」(1988、p. 32) と述べ、曁は、「言語に対する認識や女性ないしは女性の言葉に対する意識などは諺に赤裸々に示されている。」(1999、p. 27) と述べている。これらの見解に見られるように、諺研究の有効性が指摘されている。

そこで、本稿では、日韓両言語における男女に関する諺を組み立てている語彙の全般の中から、名詞だけを取り出し、そこに見られる男女の対立がどのような特徴をもって現れているかを明らかにする。

各表現に組み込まれている語彙は広い範囲にわたって実に様々な形で現れており、それらの語彙に見られる特徴を調べてみることによって、言語表現上に見られる男女に対する社会的認識に言及することもできる。

2. 分析資料と研究方法

本稿で取り扱う基本資料としては、韓国の諺の用例は『俗談辞典』（李、1980）を資料母体とし、必要な際には『우리말 속담 큰 사전（我が語の諺大辞典）』（宋、1986）や『여성 속담사전（女性俗談辞典）』（宋、1995）を参考資料として用いることにする。

一方、日本の諺の用例は『故事俗信ことわざ大辞典』（小学館、1982）を資料母体とし、さらに『故事ことわざの辞典』（小学館、1986）を参考資料として用いることにする。

以上の研究資料から男女に関する諺の用例のすべてを取り出すと、次のようである。

表1 基本資料として用いる諺数

区分	日本の諺（計 890 句）	韓国の諺（計 838 句）
男性関連表現	244 句	391 句
女性関連表現	555 句	416 句
男女混合表現	91 句	31 句

本稿の中で扱う語彙のうち、解釈の必要な語についてはそれぞれ国語辞書による定義を添えることにするが、まず韓国語に関しては、『우리말 큰 사전（国語大辞典）全2巻』（ハングル学会、1997）を、日本語に関しては、『広辞苑（第4版）』（岩波書店、1991）と『学研国語大辞典』（金田一・池田、1985）を活用する。

分析方法としては、両言語の男女に関する諺を構成する名詞の形を取っている語彙に着目し、その全体を取り出し、取り出した語彙に対してはさらに事項別分類を行う。各語彙は、便宜的ではあるが大きく、動植物、衣食住、人、時空、身体、抽象及び行為の六つの事項に取り分けてみることにする。

ただし、今回の考察で取り扱う語彙の対象は、男女を直接指す名称の語彙は除き、男女に関して述べる語彙あるいは比喩的に使用される語彙を対象とする。なぜならば、男女を指す名称は実に広範囲な枠組みを成しているため、今回の考察で、それらの全てを考察の対象とすることは紙数の都合上困難であったからである。従って、表現に主語的に現れる男女名称に関しては、今後改めて考察を行うことにしたい。

3. 男女に関する諺に見られる語彙の諸相

3. 1 事項別分類による語彙の出現数にみる特徴

両言語の男女に関する諺を組み立てている語彙は、事項別に、動植物、衣食住、人、時空、身体、抽象及び行為のおよそ 6 項目に分けられる。その上、動植物を表す語彙は動物

と植物に、衣食住を表す語彙は衣服と飲食物と器物に、時空と関連する語彙は自然と時間と空間に、身体を表す語彙は頭部と上半身と下半身、そして、その他に、さらに細分して
みることができる。

これらの事項別に細分化した語彙の出現の様子は下記の図のようになる。

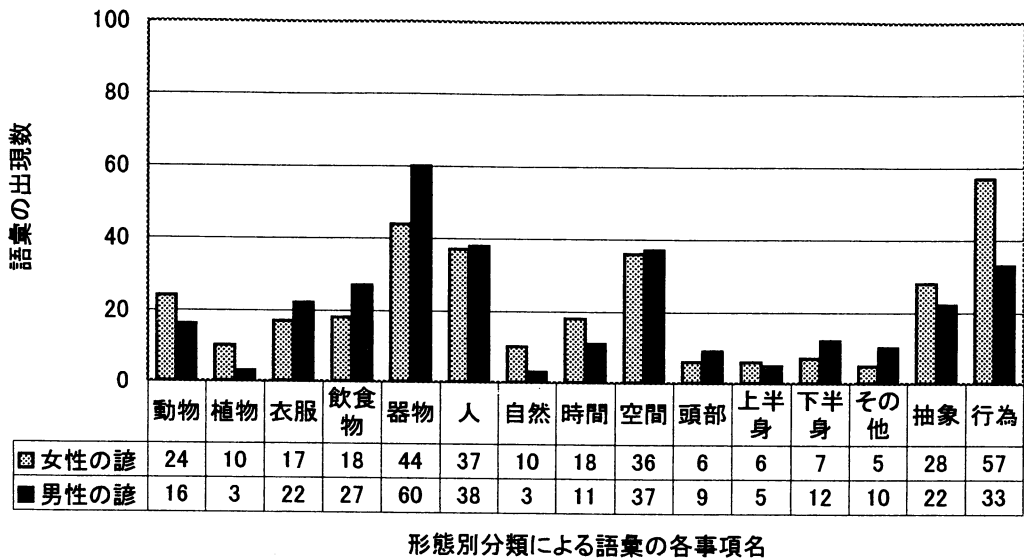


図1 韓国の男と女に関する諺に見られる事項別分類による語彙の出現数

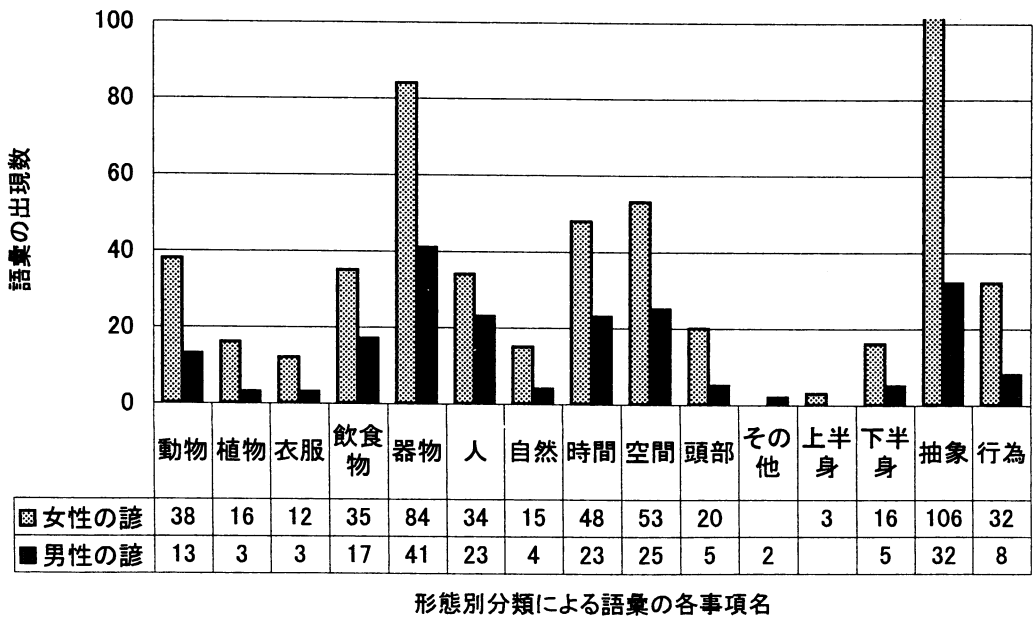


図2 日本の男と女に関する諺に見られる事項別分類による語彙の出現数

上記の図1と図2は、両言語の男女に関する諺を組み立てている事項別分類による語彙

のそれぞれの出現数の格差をグラフで表したものである。

これによると、韓国の諺の場合、女性に関する諺には、動物、植物、自然、時間、抽象、行為、上半身を表す語彙がより多く見られるのに対し、男性に関する諺には、衣服、飲食物、器物、人、空間、頭部、下半身、その他を表す語彙がより多く見られる。

一方、日本の諺の場合、語彙の出現数はすべての事項において女性に関する諺の方に偏っている傾向を示しており、しかも女性に関する諺には男性に関する諺には見られない上半身を表す語彙が加えられている。

3. 2 語彙の構成内容の概観及びその特徴

両言語の男女に関する諺を組み立てている語彙の構成内容をまとめてみると下記の表 2 のようになる。

表 2 両言語の男女に関する諺を組み立てている語彙の構成内容

		女性に関する諺		男性に関する諺	
		韓国	日本	韓国	日本
動植物	動物	評判の悪い動物中心 (動物の‘雌’を表す動物語彙が目立つ)	評判の悪い動物中心 (動物の‘雌’の形態が多少包含、魚類多数)	主体的イメージが持たれている動物の形態、権威・勇猛を象徴する動物、狼の対象動物の形態が多い(動物の‘雄’の形態も首位)	魚類や昆虫類目立つ
	植物	花の種類が圧倒的に多い	花、木、木の実など、多様性を示す	植物の茎、葉っぱ	木、植物の蔓
衣食住	衣服	女性専用の衣服の形態が多い(特に、下着の形態が目立つ)	衣装の形態が多数	権威を象徴する衣冠関連語彙多数	帽子、緒、靴などの語彙が大部分
	飲食	食材が多数(婚姻、巫俗信仰、出産関連語彙包含)	食材が多数(餅の種類が多数、日本の独特な食文化を示す語彙比較的に多い)	食材が多数(酒色関連語彙が特徴的)	食材が大多数(酒、酔が首位)
	器物	家事道具多数(特に台所、婚姻・	金銭および身上関連語彙多数、家事道	金銭関連語彙が多数(道楽関連費用	支柱、珍しい物、価値の高い物などが多数、

	器 物	子出産・貞節関連語彙も包含)	具(台所)、婚姻・家事道具・化粧・不完全な物、支柱	が多数)、女色・賭博、葬祭・学問・獵道具・大工道具	金銭(女性の方に多い)・体面・学問・權威・農作業・酒色を象徴する語彙
	人	‘子供’が最も多く、障害者を指す蔑視語彙態、家庭内の人物、性的相手としての男、悪い気性をもつ人物	‘子供’‘坊主’‘他人’‘親’が首位、特定地域の女(女らしさ)、下級階層の人物類型	血縁・姻族関係、道楽生活関連人物、上下階層の男性、性不能の男など幅広い人間関係を示唆	一人称代名詞形態首位占める、対外的付き合い(客)、子供、特定地域(男らしさ)、上層階級の人物類型
時 空	自然	気象関連語彙多数(雨、秋は収穫と関連)異常な気象(仕返し)	気象関連語彙多数(変化の激しい天候が中心)	異常な気象(禍・仕返し)	気象関連語彙(変化の激しい天候)
	時間	‘夜’多数(不貞)年齢(美と関連)‘節句’語彙も包含)	‘一生涯’、節句(節日)を示す語彙多数、婚姻、動作業時期、年齢(性的・若さを強調)	時間語彙の多様性年齢(一人前の意味合い)	年齢多数(分別盛り・精神的年齢・身体発育・物あやかりの最限度の年齢を示す)
	空間	‘家庭内’の場所が全般を占める(‘婚家’関連語彙も包含)	‘家庭内’が中心、特定地域、抽象的空間多数(仏教)、	婚姻、道楽、特定地域(固有名詞)、官庁、学問などと関連した空間	‘家’首位、‘外’が中心、男性の權威を象徴する空間、商売・店、上層階級の空間など
	身体	下半身の語彙が最も多い(女陰を表す卑俗語の語彙が多種)‘手(労働力)’と‘腹(出産)’首位	頭部が最も多い(外貌強調)お尻の語彙が特に目立つ	下半身の語彙が多数(生殖器を表す俗語の語彙は一種)、頭(卑俗語)、胸、首、腰が首位	顔面部位多数
	抽象	運命と関連した語彙多数(付属物)、性的に侮辱された語彙、感情関連語彙多数(陰険な性質を表すものが特に多い)	儒教・仏教関連語彙目立つ(陰険な性質を強調)。人間の感情(陰険な性質と関連)、浅い知恵、子使命(出産)	体面、家格、学識、風流、格式、思慮などと関連した語彙が全般的。	体面、威厳、勇気、逞しさ、精神力、我慢、有能、權勢、大胆、責任と関連した語彙
	行為	婚姻関連語彙圧倒的多数、家事、出産、淫乱(卑俗語の形態	出産・弱い力・女の道楽・不作首位、陰険、多弁、感傷的行	儒教的冠婚葬祭と関連した語彙が多数、婚姻、農作業・	出入りや行動の自由、おおらかな行為、実経済力、名誉(謝罪)と

行為	多数)、陰険な行為関連語彙	為関連語彙	獵、腕力、義理・論議、色遊びなど	関連した語彙
----	---------------	-------	------------------	--------

以上の構成内容から分かるように、両言語の男女に関する諺を組み立てている語彙は、両方とも全体的には二元対立の様相を帯びているものの、その格差は韓国の諺により明確に現れているという特徴を示している。そして、韓国の諺の方には、男女の性差的二元対立が著しく見られる。主に、男女の役割領域の二分化意識に影響された語彙が広範囲にわたって多く現れている。つまり、女性に関する諺には、家庭内の事柄および物事と関連した語彙が大半を占めているのに対し、男性に関する諺には、対内外的な広い範囲に及ぶ事柄および物事などと関連した語彙が中心となっている。

両言語とも、女性に関する諺では、家事労働、婚姻、出産、外貌、信仰およびイデオロギーと関連した語彙が全般を成しているのに対し、男性に関する諺では、権威、道楽、体面、名誉などと関連した語彙が全般を成していることが指摘できる。

ところが、両言語の女性に関する諺の間に見られる相違点としては次のようなことが見られる。

韓国の女性に関する諺に見られる語彙の中には、婚姻と関連する語彙が比較的多く、中には特に‘婚家’と関連する語彙が含まれている。これに対し、日本の女性に関する諺の方には、金銭と関連した語彙が目立っており、「大黒柱」のような、‘支柱’、つまり‘中心的存在’という意味を表す語彙も含まれているが、これらの語彙はいずれも肯定的価値を含む語彙と言える。このような語彙は、韓国の女性に関する諺の中にはめったに見られない極めて特徴的な要素として捉えられる。

その他、女性に関する諺の中には、両言語ともに信仰およびイデオロギーに関連する語彙が含まれているものの、そこには微妙に異なる点が見受けられる。要するに、韓国の女性に関する諺には、「^{ゴッ}갯」¹⁾「^{バルザ}팔자 (八字)」²⁾「^{ジブクシン}집귀신 (家の鬼神)」³⁾のような、巫俗信仰および儒教思想と関連した語彙が大半を占めているのに対し、日本の女性に関する諺には、「三従」「七去」「地獄の使い」「苦楽」「五障」「魔物」「鬼」などの仏教及び儒教思想と関連した語彙が大半を占めているという相違点が指摘できる。

次に、両言語の男性に関する諺の間に見られる最も大きな相違点としては、韓国の男性に関する諺には、男女の二元対立の様相を明確に示す特徴的要素が多く含まれているということが挙げられる。つまり、韓国の男性に関する諺には、「^{ザンサ}장사 (葬儀)」⁴⁾「^{ボルトヨ}벌초 (墓の草刈り)」⁵⁾「^{ソンミョ}성묘 (墓参り)」⁶⁾「^{サエチン}제친 (祭廳)」⁷⁾のような、儒教の冠婚葬祭と関連した語彙が相当数を占めており、これは、韓国の女性に関する諺に見られる巫俗信仰と関連した語彙と対立を成すものとして捉えることができる。

また、韓国の男性に関する諺の中には、婚姻と関連した語彙が比較的多く見られるが、これは、男性の活動領域が親族領域まで及んでいることを示唆している。このような点は、日本の男性に関する諺の中には見られない特徴と言える。

さらに、この婚姻と関連した語彙は、韓国の女性に関する諺の中にはより多く現れており、その中には婚家と関連した語彙が目立つという特徴を示している。

4. 侮辱的および卑俗的な性質を持つ語彙

両言語の男と女に関する諺を組み立てている様々な語彙の中には、侮辱的な性質が著しく見られるものも含まれており、その構成は下記のようなものである。

ただし、下記の表3に見られる語彙は、あくまでも男と女に関するそれぞれの諺の中に組み込まれている語彙の一部であって、男と女そのものを表す語彙ではない。例えば、韓国の女性に関する表現に見られる「귀머거리 (聾) / 병어리 (啞)」のような語彙は、男女両方に適用されるもので、必ずしも、女性だけに使われる語彙ではない。要するに、ここでは男女の諺それぞれに組み込まれている侮辱的な性質を持つ語彙⁵⁾が、どのような形で、どれほど多く含まれているかを確かめることにする

表3 侮辱的な性質を有する語彙の男女別構成

	韓国の諺		日本の諺	
	女性の諺	男性の諺	女性の諺	男性の諺
人	귀머거리 (聾) / 병어리 (啞)	코자 (鼓子=性不能の男)、더부살이 (住み込み者)、곰배팔이 (腕のない障害者)、노름꾼 (博徒)	坊主	
身体	밑구멍 (下の穴、女陰)、가랑이 (股)、아래 (下、女陰)、처녀불알 (処女の睾丸)、보지* (女陰)、똥 (糞)	대가리 (頭)、불알 (睾丸)、똥구멍 (肛門)、좃 (魔羅)、똥 (糞)		糞
その他	씹** (性感)、화양집 (還郷ジ ル)、서방집 (書房ジ ル) ⁶⁾	집구석 (家)		

注：*と**は、本稿で用例抽出の基本資料として扱っている『俗談辞典』(李基文、1980) の中では、*は、×と、**は××と表記されているため、『여성속담사전 (女性俗談辞典)』(宋在璇、1995)を参考にし、そこに明記されている語形を置き換えて記載したものである。

上記の表3に見られる語彙は、いずれも卑俗的および侮辱的な性質を持っているものであり、これらの語彙が、両言語の諺に現れる様相および男女に関する諺の中に現れる様相は以下の通りである。

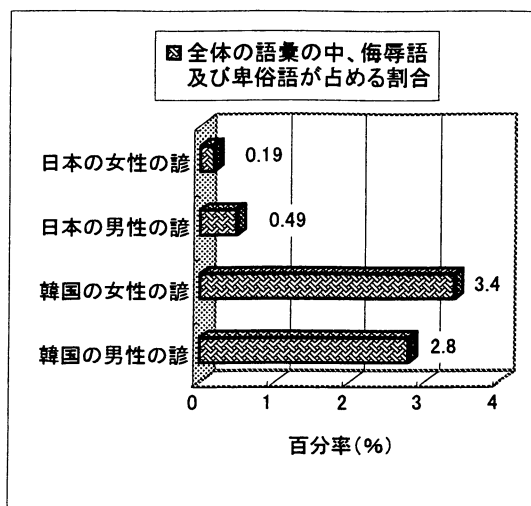
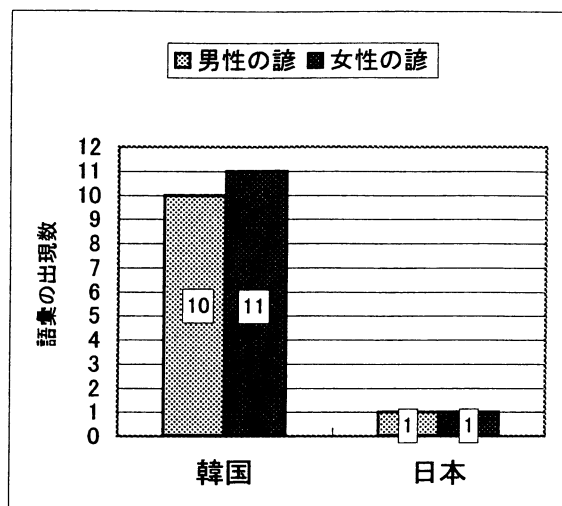


図3 両言語の男女に関する諺に見られる侮辱的性質を持つ語の男女間の格差

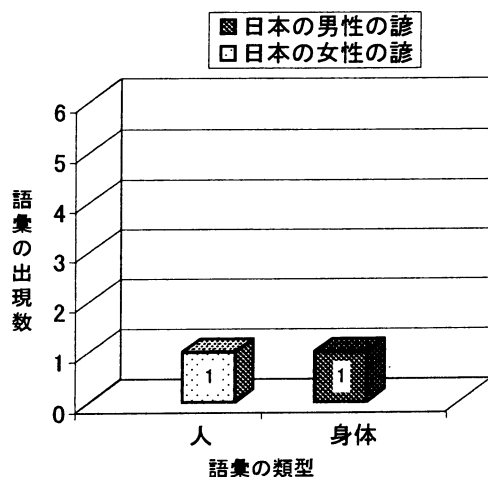
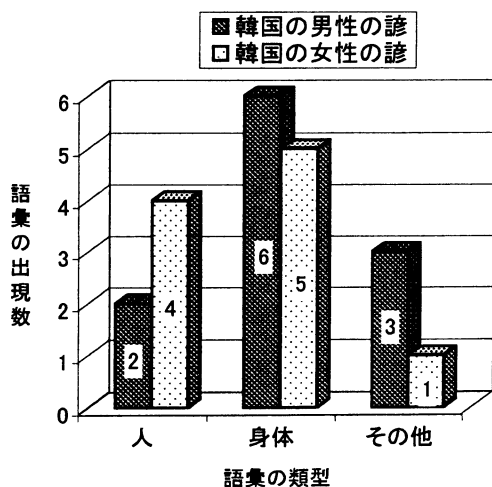


図4 類型別侮辱的語の出現数における男女間の格差

上記の図3に見られるように、侮辱的および卑俗的な性質を有する語彙は、韓国の諺の方に圧倒的に多く、かつ男性に関する諺に比べて、女性に関する諺により多く見られる特徴を示している。

そして、上記の図4は、侮辱的および卑俗的な性質を有する語彙の類型別出現数における男女の格差を示したものである。

まず、韓国の男女に関する諺に組み込まれている侮辱的語の類型は、人、身体、その他（抽象および行為関連語）の三つに分けられる。そして、語彙の多様性の面においては、女性に関する諺では、身体＞その他（観念および行為）＞人の順に現れているのに対し、男性に関する諺では、人＞身体＞その他の順に現れる。

女性に関する諺に最も多く見られる身体語の中には、「^{미쓰구멍} (下の穴 (=女陰を指す))、^{아래} (下 (=女陰を指す))、^{처녀불알} (処女の睾丸 (=女陰を指す))、^{요지*} (女陰)、^{가랑이} (股)」のような下半身を表す俗語の形が目立つが、‘足’を表す「^{가랑이} (股)」を除いては、いずれも‘女陰’を表す語彙として定着している。その他、男女共通に見られる「^똥 (糞)」も一つ見られるが、それよりも非常に語感の悪い性的侮辱語とも言える「^{섹슈얼} (性感)」をはじめ、「^{혼란질} (淫乱行為)」「^{서방질} (淫乱行為)」のような、女性の不貞な行為を指す語彙がとりわけ多く見られる。つまり、女性に関する諺では、‘女陰’を指す俗語の多様性や女性に与える性的侮辱の機能を持つ語彙がほぼ全体を占めていることが指摘できる。

なお、もう一つの特徴として、女性に関する諺には目や耳が不自由な人を指す俗語に当たる「^{귀머거리} (聾)」「^{멍어리} (瞶)」のような語彙も含まれていることが挙げられる。これに対して、男性に関する諺には人を表す語彙の多様性が目立つ。「^{고자} (鼓子=性不能の男)」「^{더부살이} (住み込み者)」「^{곰배팔이} (腕のない障害者)」「^{노름꾼} (博徒)」のような、性不能の男、住み込みの者、腕のない障害者、賭博におぼれている男を指す蔑視語として機能している語彙が多く見られる。これらの語彙は、主に男性の能力 (生殖能力・経済力)、道楽と関連したものとして捉えられる。また、「^{대가리} (頭)」「^{불알} (睾丸)」「^{똥구멍} (肛門)」「^똥 (糞)」「^마 (魔羅)」のような俗語の形が現れており、これらはそれぞれ、頭、男性の性器、肛門、大便などを指している。

男性に関する諺にも男性の性器を指す俗語が見られるものの、女性に関する諺に見られるような語形の多様性は見られない。と同時に、男性の性器を指す俗語は性的嘲弄にはつながっていないことが指摘できる。その他、‘家’を指す俗語として働く語彙も一つ見られる。

このように、女性に関する諺の中に見られる侮辱語および俗語は、性的な面で侮辱されているのに対し、男性に関する諺の中に見られる侮辱語および俗語は、能力の面で侮辱されているという大きな相違点を示している。

一方、日本の諺の場合、侮辱語および俗語に当たる語彙は男と女に関する諺にそれぞれ一つしか見られない。つまり、女性に関する諺の中には、‘僧侶’を指す俗語に当たる「坊主」が、男性に関する諺の中には、‘大便’を指す俗語に当たる「糞」が見られるだけである。なお、韓国の諺に見られるような男女間の性差的对立は見受けられない。

5. おわりに

以上、両言語の男女に関する諺を組み立てている語彙の構成に見られる男女の対立および格差の様相がどのような形で現れ、どんな特徴を示しているのかについて考究してみた。その結果、両言語とも基本的には男女の二元対立を示していることが分かった。

ところが、日本の諺に比べ、韓国の諺の方は、男女の格差がより甚だしく、しかも、明らかな性差別的対立の構造を成している傾向にあった。つまり、韓国の諺には、男女の役

割領域の二分化意識に基づいた語彙や侮辱的および卑俗的性質が濃厚な語彙の出現が一際目立つが、女性に関する諺に組み込まれている語彙は、いずれも女性蔑視に繋がる形を取っているものとなっている。そして、その他にも、歴然たる男女の二元対立を成している語彙が大半を占めていることが判明した。

一方、日本の諺の場合、女性に関する諺の中にも‘中心的な存在’あるいは‘大切な存在’という意味を含んだ語彙が比較的多く、韓国の諺に見られるような男女の性差的二元対立はそれほど明確に現れていないという大きな相違点を挙げることができた。

語彙の構成から見られるこのような特徴は、日本社会に比べ、韓国社会の男女の位置関係がより厳格に区分されていたことも示唆している。

注記

- 1) 女性が中心となって行われる集団的な巫俗儀礼の一種である。これは世帯の単位を超えて共同に参加する村の非公式的な祭りで、家庭および共同体の福祉を祈願する。

祖先崇拜の場合とは違って、‘²²굿’の行為は、女性たちが最も重要な位置を占める。巫女が‘²²굿’を主幹する場合でも、あくまでも主婦の権限を代行することにすぎない。要するに、この‘²²굿’のような、女性の集団的な参加による巫俗儀礼を通しては、男性主導の日常生活や儀礼生活の中では表に出せなかった女性たちの社会関係および人間関係に対する関心、そして、その他の女性を中心とした家族の歴史の一端を窺うことができる。金眞明、『여성들의 전통적 의례생활에 반영된 성차별 이데올로기에 관한 연구 (女性たちの伝統的な儀礼生活に反映された性差別のイデオロギーに関する研究)』『亜細亜女性研究』、第 27 卷、(梨花女子大学女性問題研究所、1998)、pp. 199-200。

- 2) 「八字」とは、人の生年月日の干支、四柱八字を指し、また「四柱」とは、生年月日時を指す。一般的に、「²³八字奇薄」という言葉をよく使うが、これはほかならぬ不運を意味すると言える。赤松智城・秋葉 隆、『朝鮮巫俗の研究(上)』、(東文選、1991)、p. 370。
- 3) 諺の中では、‘居つく’という意味を表している語で、要するに、女性の男性への隷属を象徴する語彙の一つと言える。そのような意味では、男性への従属を強調した儒教の「三従之道」の倫理を説明するのに適した語として捉えることができる。

この「²⁴집귀신」について、朝鮮総督府(1972、pp. 107-108)は‘空中に存在し、人家に祀られる鬼’と解している。

- 4) 葬式の時、墓の辺に設けて祭祀を行う所を指す。
- 5) 元来、単語の意味の美的価値は中性であった。ところが、人間の単語に対する心理作用あるいは単語が指す事物に対する人間の心理的・社会的な作用によって肯定性および否定性を帯びるようになる。そして、我々は否定的偏向を強調するものを軽蔑的發展(pejorative development)といい、肯定的偏向を強調するものを改良的發展

(ameliorative development) という。このうち、前者の輕蔑的發展は人間の心性に内在する悲觀的な面を表に表す時や個人的・社会的な偏見が働く時に生じるものと指摘されている。沈在箕、『国語語彙論』、(集文堂、2000)、p. 206.

- 6) ‘~^질’ という語は、一般的に、名詞の後尾に付いて、その名詞が示す行為や事柄を見下げていうという悪い意味で捉える性質を有する接尾語として使われるものである。この「^{후안무치}화냥질」「^{송바람}서방질」は、女性の‘淫乱な行為’を表す語として定着している。

参考文献

- 赤松智城・秋葉 隆 (1991)、『朝鮮巫俗の研究 (上)』、東文選。
- 차현실 (1999)、「담화방식에 나타난 여성상과 여성의 사회적 위상 (談話方式に現れた女性性像と女性の社会的位相)」、『언어와 여성의 사회적 지위 (言語と女性の社会的地位)』、pp. 159-229、태학사。
- 朝鮮總督府編 (1972)、『朝鮮の鬼神』、国書刊行会。
- ハングル学会 (1997)、『우리말 큰 사전 (国語大辞典) 全 2 卷』、語文閣。
- 藤原桂子 (1993)、「説話における鬼の研究－鬼女成立の周辺－」、『国語研究』第 6 号、岡山大学教育学部 国語研究会、pp. 18-35。
- 岩波書店辞書編集部 (1991)、『広辞苑 (第 4 版)』、岩波書店。
- 金眞明 (1988)、「여성들의 전통적 의례생활에 반영된 성차별 이데올로기에 관한 연구 (女性たちの伝統的な儀礼生活に反映された性差別のイデオロギーに関する研究)」、『亜細亜女性研究』、第 27 卷、梨花女子大学女性問題研究所、pp. 183-205。
- 金田一春彦・池田弥三郎 (1985)、『学研国語大辞典』、学習研究社。
- 今野敏彦 (1988)、『蔑視語－ことばと性別』、明石書店。
- 李基文 (1980)、『俗談辞典』、一潮閣。
- マッコーネル, サリー・ボーカー, ルース・ファーマン, ネリー編著 別府恵子編訳 (1989)、『文学と社会における女性と言語』、弓書房。
- 西尾寅弥 (1991)、「語彙・語彙論の問題点」、『国文学 解釈と鑑賞』第 64 卷 第 5 号、至文堂、pp. 19-25。
- 박창원 (1999)、「여성어 연구사 (女性語研究史)」、『언어와 여성의 사회적 지위 (言語と女性の社会的地位)』、pp. 43-83、태학사。
- 沈在箕 (2000)、『国語語彙論』、集文堂。
- 尚学図書 (1982)、『故事俗信ことわざ大辞典』、小学館。
- _____ (1986)、『故事ことわざの辞典』、小学館。
- 宋在璡 (1983)、『우리말 속담 큰사전 (我が語の俗談大辞典)』、端文堂。
- _____ (1995)、『女性俗談辞典』、東文選。
- コーツ, ジェニファー著 吉田正治訳 (1990)、『女と男とことば』、研究社。